

1. 授業の目的と概要

この授業では、企業と産業の経済分析を、アメリカ合衆国のケースを通じて学ぶ。

アメリカの企業・産業の話題は、日本の政府や企業が常に参照するものであり、社会人としての基礎的知識である。ニュー・エコノミーもITバブルの崩壊もコーポレート・ガバナンスも、みなアメリカ発の話題であった。この授業では、アメリカ産業の具体的な姿に個別に立ち入って分析し、個々の産業・企業の独自性を重視しつつ、経済学的な評価も行っていく。

2. 学習の到達目標

- ・競争が不完全で、数多くの具体的な条件によって制約されている産業経済の分析の仕方を学ぶ。
- ・アメリカを例として、現代の産業発展や競争政策の争点がどこにあるかを知り、社会人としての基礎的な素養とする。

3. 授業の内容・方法と進度予定

- 1 企業と産業の経済理論（工業経済学、S-C-Pパラダイム、取引費用理論） / 2 たばこ産業 / 3 自動車産業 / 4 コンピュータ産業 / 5 映画娯楽産業 / 6 航空輸送業 / 7 電気通信産業 / 8 自由企業経済における公共政策

テキスト掲載のすべての産業を取り扱うには時間が足りないので、以上のケースに絞る。

テキストの著者は産業組織論（ミクロ経済学の応用）の枠組みをもちいているが、政治・経済権力を重視する政治経済学的発想も持っている。また企業の戦略的行動の研究は経営戦略論とも重なっている。よってミクロ経済学、政治経済学、経営学のいずれかの基礎を学んでいれば、理解可能である。

この授業のスタイルはケースの記述に基づく推論を重視するものであり、数理的分析を重視するものではない。なお、最新の産業事情を知るために英文資料を用いることがありうる。

4. 成績評価方法

小テスト(30点)と期末テスト(70点)による。出席はとらないが、小テストを抜き打ちで行うことがある。小テストを一度受けた者には履修放棄を認めないことに注意されたい。

5. 教科書と参考書

テキスト：ウォルター・アダムス&ジェームス・ブロック編『現代アメリカ産業論 第10版』（金田重喜監訳、創風社、2002年）。参考書：アダムス&ブロック『アダム・スミス、モスクワへ行く 市場経済移行をめぐる対話劇』（川端望訳、創風社、2000年）。ほかはその都度指示する。

6. 予習と復習について

予習は必要ない。復習はきちんとしてないと小テスト・期末テストをクリアできない。

7. その他

教官のメールアドレス、2年前の授業の資料、合格率などは以下を参照。今回もテキストは同じだが、経済情勢の推移に応じてデータを更新し、資料を作成し直す。

<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/jugyo2002.htm>